

研究主題 社会的事象の意味について考える力を育てる社会科学習指導の在り方

— 小学校第5学年「自動車をつくる工業」における具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫を通して —

潮来市立津知小学校 教諭 高野 和之

研究の概要及び索引語

社会的事象の意味について考える力を育てるためには、児童が調査活動で得た具体的事実を関連付けて社会的事象の意味を解釈し、それを基に具体的事実を根拠として自分の考えをとらえ直し、まとめることが重要である。本研究では、小学校第5学年「自動車をつくる工業」において、具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫を通して、社会的事象の意味について考える力を育てる社会科学習指導の在り方について追究した。

索引語： 小学校，社会，社会的事象の意味，関連付ける，とらえ直す

1 主題設定の理由

社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則（平成25年3月）では「21世紀型能力」が提案された。思考力とそれに基づく学習過程の中で、「『知識基盤社会』では、『出来事』に注目しながら、主体的に情報を比較したり、関連付けたりしながら、論理的、批判的に考察し（中略）多面的なものの見方、考え方を適用して、妥当な根拠に基づいた判断を行う必要がある。」としている。小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月）（以下「解説」という。）では各学年の目標の改善について、「基礎的・基本的な知識・技能を活用し、学習問題を追究・解決することができるようにするために、（中略）社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育てること。」などの視点を重視している。これらのことから、基礎的・基本的な知識を活用し、異なる視点から妥当な根拠に基づいて、社会的事象の意味について考える力を育てることが重要であると考えた。

本学級の児童に対して、米づくりの学習における社会的事象の意味について考えることの実態調査（平成*年*月*日実施，第5学年*組*人）を行った。米づくりの体験に基づき、農家の工夫や努力について自分の考えを述べる問題では、具体的事実のみの記述にとどまった児童が*人であった。また、調べたことを関連付け根拠を基に述べる問題では、*人の児童が適切に記述できなかった。この結果から本学級の児童は、具体的事実の羅列のみで社会的事象をとらえており、社会的事象の意味について考える力に課題があることが分かった。これまでの指導において、児童が具体的事実を関連付けて考えたり、具体的事実を根拠として自分の考えをまとめたりする学習活動を指導計画に適切に位置付けておらず、その工夫が不十分であったと考えた。

そこで本研究では「自動車をつくる工業」において、児童の疑問から学習問題を設定し学習計画を立て、工場見学や調査活動を行う。児童はこれらの活動で得た具体的事実を分類し関連付けながら、その関連性や因果関係が分かるように整理し、社会的事象の意味を解釈して自分の考えをまとめる。そして、社会的事象の意味について今後の展望という新たな視点から学習問題を設定し、これまでの学習で関連付けた具体的事実を振り返り、それを根拠として自分の考えをとらえ直す学習活動を行う。これらの学習活動を通して、社会的事象の意味について考える力を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

小学校第5学年「自動車をつくる工業」における、具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫を通して、社会的事象の意味について考える力を育てる社会科学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

小学校第5学年「自動車をつくる工業」において、具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫を行えば、児童が社会的事象の意味について解釈し、根拠を基に自分の考えを深め、まとめることができるようになり、社会的事象の意味について考える力が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 社会的事象の意味について考える力について

小原友行は、「社会的事象や問題に対して『なぜ、どうして』と問いかけ、（中略）人間の働き（行為の目的とその意味・意義）を目的・手段・結果の関係を軸に解釈」することと述べ、その過程に、「目的（願い・意図・動機）を実現するための手段（工夫・努力・苦心・苦労・協力）（中略）というように、目的と手段の関係から行為の背景を解釈する」、「行為の結果として、人々の生活は維持・向上・発展したというように、行為を社会的に価値づける」ことがあると述べている。また、澤井陽介は「関連づけ、分類・整理、総合・再構成などの思考方法を駆使して考える力とその考え方に基づいて適切に判断する力」と述べ、解説の内容に示されている「考えるようにする」について、「（前略）独りよがりには考えるのではなく、事実を根拠にして理解にいたるよう考えるということ」と述べている。

つまり、児童は社会的事象の意味について、行為の手段（具体的事実）をその目的や結果に関連付けることで解釈でき、それを根拠として構成することで適切な判断や理解にいたるよう考えることができる。

以上のことから本研究では、社会的事象の意味について考える力を、具体的事実の関連性や因果関係から社会的事象の意味を解釈し、具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめる力であると捉え、研究を進める。

イ 社会的事象の意味について考える力が育つ過程について

本研究における社会的事象の意味について考える力が育つ過程を図1のように二つの段階で考えた。まず、工場見学や調査活動で得た具体的事実を、学習カードを用いて分類し関連付けを行うことで、「手段－目的－結果」の関係から整理する。次に今後の展望という新たな視点から、ワークシートを用いて、関連付けた具体的事実を振り返り、自分の考えをとらえ直す。これらの学習活動を通して、児童が社会的事象の意味について解釈し、根拠を基に自分の考えを深め、まとめることができるようになり、社会的事象の意味について考える力が育つと考える。

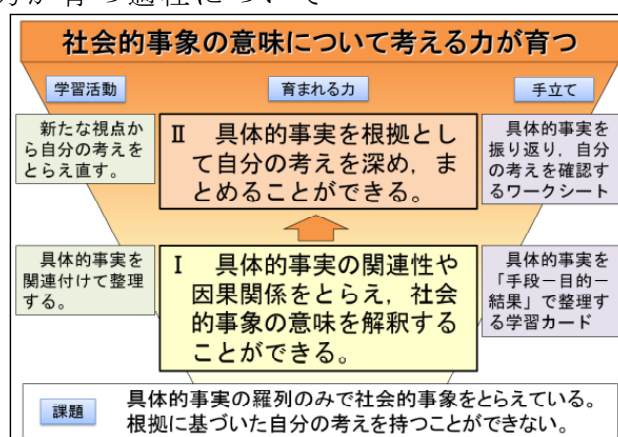


図1 社会的事象の意味について考える力が育つ過程

ウ 研究主題に到達した児童の姿について

社会的事象の意味について考える力が身に付いた児童の姿を表1のように捉え、学習カードやワークシートの記述、学習の振り返りの記述、事前と事後の調査結果の比較などから分析し検証していく。

表1 社会的事象の意味について考える力が身に付いた児童の姿

I	具体的事実の関連性や因果関係をとらえ、社会的事象の意味を解釈することができる。
II	具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめることができる。

エ 具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫について

児童は、具体的事実进行分类し関連付ける学習活動において、図2のような「知識の構造図」(以下「構造図」という。)を作成する。これは北俊夫が提唱したものであり、各単元において身に付ける知識を、「具体から抽象へ」あるいは「事実から概念へ」とピラミッド型に表したものである。本来

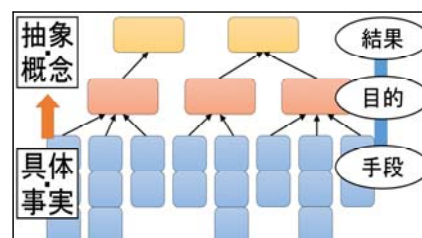


図2 知識の構造図

は指導者の教材研究の手立てに用いられるが、先行研究には児童が構造図を作成し、具体的事実を関連付けて概念的知識を獲得する学習活動も見られる。しかし、児童の思考を促す具体的な手立てが不足しているという課題がある。そこで、具体的事実进行分类し関連付けながら「手段－目的－結果」の関係を3段階で構造図に整理する学習活動を行うことで、具体的事実の関連性や因果関係をとらえることができ、社会的事象の意味を解釈することに役立つと考える。

また、自分の考えをとらえ直すことについて澤井陽介は、「わかったことをもとにして、自分なりの考えをまとめる思考」であり、「もう一度具体的な事実や情報に戻り、価値や課題について判断し、自分の考えを組み立て直すもの」と述べている。自分の考えをとらえ直す学習活動は、自分が解釈した社会的事象の意味について、新たな視点から具体的事実を根拠として自分の考えを組み立て直すことであると捉える。この活動は社会的事象の意味に価値や課題を見いだして考えを深めたり、まとめたりすることに役立つと考える。

(2) 主題に迫るために

ア 児童の実態について

表2は、児童の農業の学習における実態調査の結果である。米づくりの体験で分かったことと自分の考えを結び付けて述べる問題では、体験に基づいて農家の工夫や努力を考えて記述できた児童は*人で、他の児童は「手作業は大変だった」、「水の管理が大切だ」など具体的事実のみの記述が多く見られた。次に、米づくりに関わる人の工夫や努力について、具体的事実が書かれた10枚のカードを「生産活動」、「流通や販売」などの観点から2枚ずつ分類し関連付け、それを根拠として自分の考えを記述する問題を行った。全ての組合せで観点を踏まえた適切な記述ができた児童は*人で、適切な記述が全くできなかった児童は*人であった。また、具体的事実の適切な組み合わせも十分にできていない状況であった。これらのことから、具体的事実を分類し関連付け、具体的事実を根拠として考える力に課題があることが明らかになった。そのため、具体的事実を分類し関連付ける手がかりとなる手立てや、具体的事実を根拠として構成するための手立てが必要であると考え。

イ 具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫について

(ア) 具体的事実を「手段－目的－結果」で整理する学習カード

資料1は、本単元で使用する3種類の学習カードである。これらのカードには具体的事実を分類し関連付け、「手段－目的－結果」の関係をとらえるために自分の考えを記入する欄を設けた。カード①の下部には具体的事実（手段）について、その行為の目的（「それは、～ためだと思う。」）を考えて記入する。具体的事実を分類し関連付ける際には、この部分を参照して具体的事実の関連（目的）を見いだす。カード②には見いだした具体的事実の関連（目的）を表す内容（「それは、～ためにしている。」）を考えて記入する。その下部には、具体的事実をつないだ理由（働く人の願い、だれにとってどんないいことがあるか）を記入する。そして、カード③には日本の自動車工業が国民生活にどんなことをもたらしているのか（結果）を考え、その役割を記入する。

表2 農業の学習における実態調査の結果
(平成*. *. *実施 潮来市立津知小学校
第5学年*組*人)

米づくりの体験で分かったことと自分の考えを結び付けて述べる問題			
体験に基づいて農家の工夫や努力を考えられた記述			*人
具体的事実だけの記述			*人
米づくりについて調べたことを分類し関連付けそれを根拠として自分の考えを述べる問題			
具体的事実の組合せ		関連付けて考えを記述	
適切な組合せの数	人数	適切な記述の数	人数
5	*人	5	*人
3～4	*人	3～4	*人
1～2	*人	1～2	*人
0	*人	0	*人

資料1 具体的事実を関連付ける学習活動で使用する学習カード

カード①(調べるカード)

名前()

調べて分かったこと・気づいたことは、

具体的事実(手段)

それは、その行為の目的 ため だと思う。

から、

カード③(まとめるカード)

名前()

つまり、日本の自動車工業が国民生活にもたらすもの(結果)

から、

カード②(つなげるカード)

名前()

これらは、具体的事実の関連(目的)

理由は、 つないだ理由

から、

☐ 囲みの中は「手段－目的－結果」の内容、
☐ 囲みの中は「手段－目的－結果」の関係を児童が考えて記入する。

カード①の色分けについて

第3時(白)－部品工場(見学)

第4時(黄)－組み立て工場

第5時(青)－工場間の協力、流通・貿易

第6時(緑)－人と環境にやさしい車の研究・開発

これらの学習活動で、児童は資料2のようにカード①をその関連性が分かるように縦一列につなげ、カード②及び③を「手段－目的－結果」の関係に合わせて配置し、矢印で結ぶ。こうして具体的事実を分類し関連付けながら、社会的事象の意味を解釈できるようにする。また、学習カードを構造図に整理することで、児童は具体的事実の関連性や因果関係を確認して振り返ることができ、学習のまとめや自分の考えをとらえ直す場面で活用することができる。カード②及び③に書かれた内容から社会的事象の意味を解釈し、これをクラス全体で共有する。さらに、学習の振り返りを個人で行うことにより自分の言葉で表現できるようにする。

このようにして、児童は具体的事実の関連性や因果関係をとらえ、社会的事象の意味を解釈することができるようになると思う。

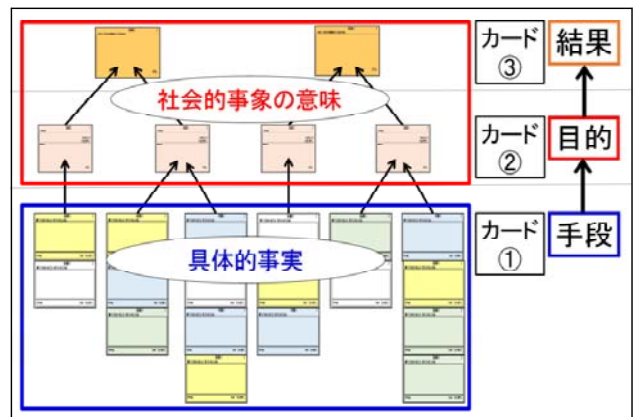
(イ) 具体的事実を振り返り、自分の考えを確認するワークシート

第9時では今後の展望という新たな視点から設定した学習問題について、構造図のカード②及び③を参照して自分の考えをワークシートに記入する。それに基づいて、第7時の構造図で関連付けた具体的事実（カード①）を振り返り、自分の考えの根拠を構成できるも

のを見付けてワークシートに貼る。根拠を構成する具体的事実が見付からない場合は、自分の考えが単元で学習した内容と関連していない可能性があるので、もう一度自分の考えを確認する。また自分の考えに関連する具体的事実が多数ある場合は、考えをより明確にできるものを吟味する。そして自分の考えと、その根拠となる具体的事実を「例えば」、「なぜなら」などの言葉でつなぎ、文章にしてまとめる。さらにグループで自分の考えを発表し合い、意見交換をする。その際、ワークシートの「3つのチェックポイント」を参照しながら互いの考えを比較検討することで、自分の考えに妥当性や信頼性があるか確認する。

このようにして、児童は関連付けた具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめることができると思う。

資料2 構造図とカードの配置例



資料3 自分の考えをとらえ直すワークシート

1 「日本の自動車づくりをこれからどうしたらよいか。」 自分の考えを書きましょう。			
自分の考え	理由 カードをはりましょう。		
	カード① カード② カード③ カード④ カード⑤ カード⑥		
2 自分の考えをまとめましょう。			
3 自分の考えをグループで発表し合い、チェックしてみましょう。（3つのチェックポイント）			
①みんながなっとくする理由があるか。	②ほかにもっとよい考えはないか。	③本当にその考えでよいか。	

(3) 授業の実践

ア 単元の指導計画

1 単元の目標		
○我が国の自動車工業の様子に関心を持って意欲的に調べ、働く人々の工夫や努力によって国民生活を支える我が国の工業生産の役割や発展について考えようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度) ○我が国の自動車工業について調べた事実を関連付け、自動車工業が国民生活を支える重要な役割を果たしていることや工業の発展について考え、適切に表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現) ○我が国の自動車工業について具体的な調査活動や文章、写真資料、地図、統計などの資料を活用して適切に読み取り、調べたことや分かったことをワークシートやカードなどにまとめることができる。 (観察・資料活用・技能) ○我が国の自動車工業に携わる人々の様々な工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きを理解するとともに、自動車工業が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)		
2 単元の指導計画 (10時間)		
段階	おもな学習活動	指導上の留意点と評価 (◎)
つかむ	1 日本 の自動車について考えてみよう。 ○保護者アンケートから自動車と生活の関わりを確認する。 ○各国の国産車の割合や世界の日本車信頼度ランキングを見て、気付いたことや不思議に思ったことを発表し合う。 ○単元の学習問題を決める。 なぜ日本の自動車は、日本や世界で人気があるのだろうか。	・保護者アンケートの結果を掲示して、児童が日常生活と自動車の関わりについて発言できるようにする。 ・児童の発言を整理し、日本の自動車は国内はもちろん世界中で使われているという事実を確認できるようにする。 ◎自動車とわたしたちの生活の結び付きや、日本車の評価の高さに気付き、進んで疑問点を見付けようとしている。 (関心・意欲・態度 児童の発言、ワークシート)
	2 自分で調べたいことやその方法を出し合い、学習の計画を立てよう。 ○単元の学習問題について予想し、調べることを話し合う。 ○調べる方法を考え、話し合う。 ○調べる内容や順序、方法を全体で話し合い、決定する。	・予想を分類し、調べる内容を考える手がかりにする。 ・見学の視点や聞き取り調査の内容をはっきりさせる。 ◎これまでの学習を基に自動車工業について調べたいことを整理し、意欲的に調査活動に臨もうとしている。 (関心・意欲・態度 児童の発言、ワークシート)
調べ	3 部品工場ではどのように部品をつくっているのだろうか。 ○部品工場の生産の様子を見学する。 ○働いている人の話を聞き、分からないことを質問する。 ○部品工場の生産や働く人の工夫や努力をまとめる。	・見学の視点を意識しながら見学できるよう助言する。 ・「人・物・きまり」に着目しカードに書くよう助言する。 ◎部品工場の生産や働く人の工夫や努力について調べたことをカードにまとめている。 (技能 カード)
	4 組み立て工場ではどのように自動車をつくっているのだろうか。 ○自動車の生産工程について調べる。 ○働いている人の様子や生産上のきまりについて調べる。 ○組み立て工場の生産や働く人の工夫や努力をまとめる。	・作業工程の資料から、働く人の工夫や努力に着目させる。 ・「指示ピラ」、「ジャストインタイム」などの用語は、具体的な資料を示しその内容をカードに書くよう助言する。 ◎組み立て工場の生産や働く人の様子について、各種資料から具体的に読み取っている。 (技能 カード)
とらえ	5 完成した自動車は、どのようにして消費者にとどけられるのだろうか。 ○組み立て工場と部品工場の関係について調べる。 ○自動車が消費者に届く過程や輸送手段について調べる。 ○工場間の連携や消費者に届く過程についてまとめる。	・学習の振り返りや図から工場間の連携に着目させる。 ・自動車が消費者に届くまでの過程の資料を提示し、輸送面の工夫や努力、現地生産の仕組みに気付くようにする。 ◎工場間の連携や自動車が消費者に届く過程について理解している。 (知識・理解 ワークシート)
	6 人と環境にやさしい自動車づくりのために、どのようなことをしているのだろうか。 ○高齢者の事故や排気ガスの大気汚染などの問題を知る。 ○自動車の研究や開発、企業の取組について調べる。 ○人と環境にやさしい自動車の研究・開発をまとめる。	・少子高齢化や環境問題など社会的な側面から自動車工業について考えられる具体的な資料を提示する。 ・開発の目的に着目して考えるよう助言する。 ◎人と環境にやさしい自動車づくりの研究・開発について理解している。 (知識・理解 ワークシート)
まとめ	7 自動車づくりのこれまでの学習を整理し、日本の自動車づくりの役割を考えよう。 ○調べたことを分類し、関連するところを考える。 ○自分の考えを記入したカードを構造図に整理する。 ○構造図を見ながら日本の自動車づくりの重要な役割について話し合い、全体のまとめをする。	・共通点を見付けられない児童には、調べた具体的事実に対する目的を記入した部分を見て考えるよう助言する。 ・関連を考えられない児童には、人々が必要とする自動車づくりや生産の工夫などの視点を与える発問をする。 ◎国民生活を支える日本の自動車工業の重要な役割について調べたことを関連付けて考えている。 (思考・判断・表現 カード、ワークシート)
	8 日本 の自動車づくりの未来はどうなっていくのだろうか。 ○世界の自動車生産台数の推移についての資料を見る。 ○資料から気付いた点や疑問点を整理し学習問題を決める。 日本 の自動車づくりをこれからどうしたらよいだろうか。 ○資料から生産が多い国の自動車づくりの特色を見付ける。 ○日本の自動車づくりの長所を考えワークシートに書く。	・資料を段階的に見せ、日本をはじめ主要な自動車生産国の生産量の変化に気付くようにする。 ◎日本の自動車工業の役割や発展について進んで調べようとしている。 (関心・意欲・態度 ワークシート) ・資料から中国は低価格、アメリカは品質向上という特色に気付かせ、それを手がかりに日本の長所を考えさせる。
まとめ	9 日本 の自動車づくりをこれからどうしたらよいのか を考えよう。 ○学習問題に対する自分の考えをワークシートに書く。 ○構造図から、関連付けた具体的事実のカードを取り出し、自分の考えの根拠を見付けて文章にまとめる。 ○グループで自分の考えを発表し合い、意見交換をしながら、自分の考えを確認する。	・根拠のカードが見付からない児童には、前時の学習内容や構造図から関連するカードを見付けるよう助言する。 ・意見が出ない児童には、「その考えに納得したか」、「自分の考えと比べてどうか」を考えるよう助言する。 ◎日本の自動車工業の役割と発展について考えている。 (思考・判断・表現 児童の発言、ワークシート)
	10 日本 の自動車の人気が続くように、自動車づくりの「今」と「これから」をまとめてレポートを書く。 ○前時で考えた内容について全体で発表し合う。 ○日本の自動車工業について自分の考えをまとめる。	・「今」と「これから」の段落を分けて書くよう助言する。 ◎日本の自動車工業が様々な工夫や努力によって維持発展し、国民生活を支える重要な役割を果たしていることに気付き、自分の考えを分かりやすく表現している。 (思考・判断・表現 レポート)

イ 単元の記録

＊単元の記録は非公開とする。

(4) 授業の分析と考察

ア 具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫について

(7) 具体的事実を「手段－目的」資料4 児童が作成した構造図の一部

－結果」で整理する学習カード

資料4の構造図を見ると、児童は具体的事実を記入したカード①の下部に、「くり返し使うため」、「すばやく運ぶため」など、行為の目的を考えて記述した。そして、それらを手がかりに具体的事実を分類し関連付け、カード②には「むだのない」、「たくさんつくる」など具体的事実の関連を記入した。その下部には働く人の願いを考えて記入し、それらを手がかりにカード③には「地球のために環境を守っている」、「乗る人の気持ちを考えている」など行為の結果を考え、国民生活を支える日本の自動車工業の役割を記入できた。

表3 学習カードの児童の記入内容
(延べ人数)

カード②				カード③			
適切		適切でない		適切		適切でない	
枚数	人数	枚数	人数	枚数	人数	枚数	人数
*	*	*	*	*	*	*	*
適切な内容の規準				適切な内容の規準			
「乗る人の安全を守る」、「効率よくつくる」、「品質をよくする」など生産者の工夫・努力や生産活動の目的が分かる内容である。				「乗る人のことを考えている」、「環境にやさしい」、「くらしに役立つ」など消費者や社会のニーズに込めていること、国民生活を支えていることが分かる内容である。			

表3からも、児童はカード②及び③に日本の自動車工業の役割について多様な観点から考え、適切な内容を記入できたことが分かる。この結果から、学習カードを用いて具体的事実を分類し関連付ける学習活動は、具体的事実の関連性や因果関係をとらえ、社会的事象の意味を解釈するための手立てとして有効であったと考える。

(4) 具体的事実を振り返り、自分の考えを確認するワークシート

資料5は、自動車をつくる工業について、とらえ直しを行う前後の児童の考えの変容である。「これからの日本の自動車づくり」という新たな視点から、構造図を参照し「大切な

資料5 自動車をつくる工業についての児童の記述（抜粋）

第7時		第9時	
学習の振り返り		根拠	とらえ直してまとめた自分の考え
とらえ直し	・みんなに役立つ安全で安心でこれにいい自動車づくりをしている。	・自動ブレーキや運転アシストのきがある。 ・きびしい検査をしている。	くらしを守るために、事故の予防が大切だと思う。
	・働く人の工夫や努力でよい製品がつくられている。 ・くらしを豊かにし、環境を守っている。	・むだを少なくする工夫や努力をしている。 ・部品などは再利用できるようにつくっている。	むだがなくで再利用できる自動車づくりをすれば、環境にやさしく消費者の役に立つと思う。
	・消費者の笑顔を見るためにたくさん工夫している。 ・乗る人が安心できる車をつくっている。	・電気自動車や燃料電池車などの実用化が進んでいる。	環境にやさしく、品質のよい車を開発していけば、世界中の人の笑顔を見ることができると思う。
	・働く人が工夫や努力をして自動車をつくり、消費者のくらしを支えている。 ・安全・安心で、環境にもやさしい。	・工場どうし協力して新しい部品を開発している。 ・しょうとつ安全がディや自動ブレーキのシステムを開発している。	会社が協力してよいところを出し合い、安全・安心な車をつくる工夫と努力を積み重ねていけば、人々の生活が豊かになると思う。
具体的事実を根拠として自分の考えを記述できた児童 30人			
※ ゴシック体は具体的事実を振り返って自分の考えをとらえ直してまとめた部分を表す。			

ことは何か」と考えた。次に関連付けた具体的事実を振り返って吟味し、ワークシートを用いて自分の考えをとらえ直した。そして「くらしを守るために事故の予防が大切」、「環境にやさしく消費者の役に立つ」など、社会的事象の意味についてより深く考え、まとめることができた。これは、児童が社会的事象の意味について将来の生活に関わる現実的な課題として自分の考えをとらえ直したためであると考ええる。ワークシートの「3つのチェックポイント」を用いて互いの考えを確認する場面では、「～は～と同じくらい大切だ」、「～という考えに納得した」という意見が出され、考えを比較検討することができた。また友達からの指摘を受け、もう一度構造図を見てカードの内容を確認する児童が見られた。

これらのことから、自分の考えをとらえ直す学習活動は、関連付けた具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめるために有効であったと考える。

イ クラス全体の変容について

表4の社会的事象の意味を記述する問題における事前と事後の調査結果を比較すると、評価がAの児童は①の問題では*人から*人に、②の問題では*人から*人に増加し、それぞれの問題において評価がCの児童は*人となった。変容が見られなかった児童は、考えの根拠に曖昧な部分は見られたが、具体的事実を関連付けて社会的事象の意味を記述できた数は増加した。このことから、具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動は、社会的事象の意味について考える力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

ウ 抽出した児童の変容

資料6(p.9)は、抽出児童が社会的事象の意味について記述した内容である。児童Aは既知の事実を根拠として自分の考えを予想したが、児童B及びCは既知の事実の羅列のみであった。第7時では、いずれの児童も具体的事実を関連付け、「働く人の協力」、「乗る人の安全・安心」など多様な観点から社会的事象の意味を解釈していた。第9時で児童Aは、具体的事実を振り返り、現実的な課題として命と環境を守るという考えをまとめることができた。児童Bは自分の考えをとらえ直し、具体的事実から品質や性能に価値を見いだしてまとめることができた。児童Cは、自動車を全自動化することを考えたが、友達から「理由が分からない」という指摘を受けた。再度、具体的事実を振り返り確認した結果、根拠を示して自分の考えをまとめることができた。このことから、児童は社会的事象の意味を解釈し、具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめることができ、社会的事象の意味について考える力が身に付いたことが分かる。

表4 事前調査と事後調査における社会的事象の意味について考える力の変容
(平成*. *. *, 平成*. *. *
実施 潮来市立津知小学校第5学年*組*人)

詳細なデータは非公開とする。	
① 具体的事実の関連性や因果関係をとらえ、社会的事象の意味を解釈する。 (10枚のカードを2枚ずつ組み合わせ、関連付けて記述)	A 農業(工業)における社会的事象の意味について適切な記述が4～5個できた。 B 適切な記述が1～3個できた。 C 適切な記述ができなかった。
② 社会的事象の意味について具体的事実を根拠として自分の考えをまとめる。	A 農業(工業)が果たしている重要な役割について、複数の具体的事実に基づく明確な根拠を持って記述している。 B 具体的事実を根拠として記述している。 C 根拠がない。
◎ 評価がCからA、評価がAのまま ○ 評価がBからA、評価がCからB △ 評価がBのまま	記号は各児童を表し、出席番号順ではない。児童の欄のA、B、Cは抽出児童である。

資料 6 日本の自動車づくりについて抽出児童が記述した内容

	第2時（予想）	第7時	第9時
児童A	・燃費がいい。 ・排気ガスが出る量が少ない車や出さない車がある。 ・しょうとつ実験や検査をして安全を確かめている。	日本の自動車づくりでは、働く人が乗る人の気持ちを考えて作業しているので、みんなのくらしを支えていることが分かりました。また、日本でできた車は、安全で環境にもやさしいから、外国でも人気があると思いました。大人になったら、これだけ安心な日本の車を買いたいと考えています。	私の考えは二つあります。一つ目は、乗る人の安全を考えた車づくりを進めることです。 <u>なぜなら、事故などが起きたときに乗っている人の命を守らなくてはいけないから</u> です。二つ目は、 <u>環境にやさしい車を広めていくことが大切だ</u> ということです。例えば、ガソリンだけで走る車がたくさんあると、車から出る排気ガスが環境を悪くしてしまいます。だから環境によい車をもっとたくさんの人に乘ってもらえばいいと思います。これからは人の命を守り、環境にやさしい自動車をつくっていけば、わたしたちのくらしが豊かになっていくと思います。
児童B	・燃費がいい。 ・いろいろな種類がある。 ・いろいろなきのある車がある。	日本の自動車づくりは、働く人が、努力・協力をしながら消費者が買ってくれるように工夫してつくり、くらしをよくしてよるこばれる自動車をつくっています。	これからの日本の自動車づくりには、品質や性能が大切だと思います。 <u>なぜなら、日本の自動車づくりには品質や性能をよくする工夫をたくさんしているから</u> です。 <u>リサイクルをしたそざいや部品の品質をよくすることも大切だ</u> と思います。品質や性能が上がれば、みんなが安全で豊かにくらしをせると思います。
児童C	・よい車をつくっている。 ・すべりにくいタイヤがある。 ・テレビがついている。	働く人が協力しあっていて、車に乗る人のために安全な車をつくっていることが分かった。乗る人に安心して乗ってもらうためにやっていることも分かった。	日本の車は工夫してつくっていてせいのうがいいから、車のきのうを全部自動にすれば、車に乗る人が気持ちよく乗れると思う。例えば、キーを使わないでボタンでエンジンをかけたり <u>ドアを開け閉めしたりできるきのうや自動的にブレーキをかけて事故をふせぐきのうがある</u> 。だから車のきのうをもっと自動にすればみんなの役に立つと思う。高れい者や体の不自由な人も楽に乗れて助かると思う。
備考		※ ゴシック体は具体的事実を関連付けて社会的事象の意味を解釈した部分を表す。	※ ゴシック体は社会的事象について自分の考えをとらえ直して自分の考えをまとめた部分を表す。 ※ 下線部は自分の考えの根拠を表す。

5 研究のまとめ

小学校第5学年「自動車をつくる工業」における具体的事実を関連付けてとらえ直す学習活動の工夫を通して、社会的事象の意味について考える力を育てる社会科学習指導の在り方を追究した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 具体的事実を関連付ける学習活動は、具体的事実の関連性や因果関係をとらえ、社会的事象の意味を解釈するために有効であった。
- (2) 自分の考えをとらえ直す学習活動は、関連付けた具体的事実を根拠として自分の考えを深め、まとめるために有効であった。

6 今後の課題

本研究では、社会的事象の意味について根拠を基に価値や課題を見いだして考えを深め、まとめることを追究した。今後は、社会との関わり方を視点とした学習問題を設定し、具体的事実を根拠として現実的な課題を解決できるように、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習活動について研究する。

〈引用文献〉

- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説社会編」 平成20年8月
 小原友行編著 「『思考力・判断力・表現力』をつける社会科授業デザイン 小学校編」 明治図書 平成21年3月
 澤井陽介著 「授業を変える5つのフォーカス」 図書文化社 平成25年7月
 北俊夫著 「社会科学力をつくる知識の構造図」 明治図書 平成23年11月